つつきの

平成２３年８月１日発行
第５号
京田辺市観光ボランティア
ガイド協会　広報部編集
☎　0774-68-2810

京田辺市観光ボランティアガイド協会代表あいさつ

小川祐輔さん

長年本会の代表として会の運営に尽力されました橋本英吾氏が、3月をもって辞任されました。これを受けまして私が、その職を引き継ぐことになりました。どれだけの事が出来るかわかりませんが、京田辺の観光振興に出来る限りの努力をしたいと思いますのでよろしくお願いします。

本年は聖徳太子の曽祖父である第26代・継体天皇が、当地に「筒城の宮」を設けられてから1500年目の記念すべき年になります。わたくしどもボランティアガイドは、京都府のインターネット生涯学習講座「京都ｅラーニング塾」に【京田辺市における継体天皇ゆかりの伝承地について】を４月から三回にわたり提供し、５月21日には受講者の方々を現地案内しました。この秋には、京田辺市民の皆様方にも継体天皇の「筒城の宮」の謎解きにチャレンジしていただきたく市民ウォークを計画しています。ぜひともご参加の程お願いいたします。

シリーズ　京田辺の寺院仏閣巡り

開運山　壽寶寺

梅雨の晴れ間となった６月２日に、三山木にある寿寶寺を訪問しました。創建は文武天皇時代の慶雲元年（７０４）、「山本の大寺」といわれるほどの七堂伽藍の備わった大寺であったという。

元は現在地の東方、佐牙神社発祥地付近にあったが、木津川の氾濫により、度々寺地が変わり、享保17年（１７３２）現在の地に移転しました。

壽寶寺本堂

ご住職は山城町出身、高野山で修業され、平成９年に第十五世住職として就任。明治の廃仏棄釈により廃寺となった佐牙神社神宮寺の恵日寺から、千手千眼観音立像（国の重要文化財）と、降三世明王像・金剛夜叉明王像（平成２３年に市指定重要文化財）を、飯岡の蓮華寺から聖徳太子像、十一面観音像を受け入れる。平成９年の落慶時に茅葺の本堂を改築されている。

本堂の外陣が１６畳、内陣が１２畳で中央の６畳には、板の間で護摩壇が設けられている。内陣の中央の壇には大日如来坐像、向かって右には不動明王立像、左には釈迦如来坐像が祀られている。

千手千眼観音菩薩(重文)

また向かって左の脇壇には、十一面観音像と聖徳太子像があり、右脇壇には金剛杵を持った弘法大師坐像と覚鑁（かくばん）上人坐像がある。お庭の隅にある鶏霊碑と佐牙神社の関係など新たなる発見もあり、物静かにお話をされるご住職に親近感を覚えたひと時でした。

鶴沢の池を読んだ句碑→

ＪＲふれあいハイク春号報告　-4月30日-

JR ふれあいハイクとしては珍しく、バスを利用して市南部の山間部を歩くコースを実施。GW にも関わらず子供たちを含め、111 名の参加がありバス３台で出発しました。お客様を６班に分けてガイドをする。私の受け持ちは 18 名。参加者の半数近くが京田辺市民だったが、京田辺にこんな所があるのかと驚いておられた。

無二荘牡丹園

天正年間創建とされる極楽寺で鎌倉時代の石塔等を拝し、饒速日命が降臨した天磐船を見て、京田辺市最高峰の千鉾山に登る。戦いに敗れた武将が千本の鉾を埋めた所とか。江戸時代には米相場の中継点でもあった。不整合という年代の違う地層の塊を見て、朱智神社へ。この神社の祭神の１つ牛頭天王は、八坂神社の元神とのこと。急な坂を下ると、無二荘牡丹園が目に入る。例年に比べ開花がすこし遅いとの事だが、見渡す限りの牡丹に参加者は満足そう。帰り道、観音寺によって国宝十一面観音菩薩を見ていただき、「良かった、又来るよ」の言葉に足の痛さも吹っ飛びました。　(土居貞往)

ｅラーニング現地案内報告　-5月21日-

平成２３年度京田辺観光記念行事の一環として「継体天皇筒城宮遷都 1500 年」を取り上げ、4月からｅラーニング講座を実施してきました。
3 回の講座を実施し、5月 21 日（土）の最終日には現地研修会を行いました。参加者は 33 名。案内は定点ガイドをベースに堂の後、京田辺資料室、酒屋神社、筒城宮跡、観音寺を通り、普賢寺川周辺、山本、飯岡等の案内をしました。

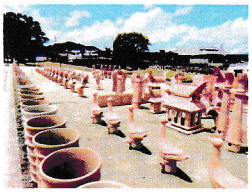
特に今回のテーマは継体天皇に纏わる情報とし応神天皇から欽明天皇まで、継体天皇を中心に各天皇に関わりのある寺社仏閣、史跡、伝承などを取り上げて紹介しました。

話の中には「ん…？？」と考える内容もありましたが、出席者の方々は楽しい話として聞き流していただきました。

行程は十数キロのウォーキングとなり、かなりハードな距離となりましたが、御高齢の方も最後まで完歩され、次回の再会を約束して午後３時半ごろ解散しました。会員の皆さん大変御苦労さまでした。

管外研修　高槻市の古墳群を巡る

６月 21 日、夜来の激しい雨がやみ、曇り空の下、高槻方面へ出発。まず広くて緑いっぱいの公園墓地をバスは登り、安満宮山古墳に到着。大阪平野を一望する事が出来、しばし景色に見とれる。中国魏の年号(青龍３年)銘のある銅鏡など復製による墓杭の再現や鏡を埋め込んだ説明板がある。その後、高槻城跡歴史館と歴史民族資料館を見学、町の歴史を勉強した。


今城塚古墳の埴輪群

歴史館に復元された商家笹井家住宅があり、我が町の澤井家と比較して興味深く見学する。

ハニワ工場公園には昼前に到着。日本最大最古のハニワ工場には工房が復元され、復元ハニワについてわかり易く説明されており、今城塚古墳等の大王級の古墳に供給していた事などで一気に継体天皇に迫る。

今城塚古代歴史館では古墳造りの工夫、実物の埴輪や出土品を通じて今城塚古墳の実像に迫り、３ 基の復元石棺をみる。また継体天皇の古墳といわれる墳丘には発掘調査で確認された位置に牛、馬、武人、巫女、建物の復元埴輪が並べられ、往時の景色は壮大なものであった事が実感できました。(高橋佳世子)

観光ボランティアガイド協会の案内

京田辺市観光ボランティアは観光協会に属し、独自のボランティア活動を展開しております。基本は会社勤めや子育てからやっと解放され、ほっとした空き時間を利用して、京田辺をもっと知るため、勉強会を重ね、その知識を観光ガイドに生かそうという集団です。「気を使わずに楽しく会話する」がモットー。興味のある方は観光協会にご連絡ください。

シリーズ
「屋根の知識」　その２

＊その他の屋根

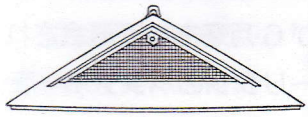
・錣（しころ）屋根：大棟から葺き下ろした屋根の途中で区切りを作り角度を変えて屋根を延長する形式。

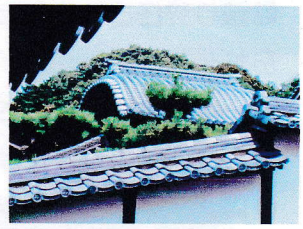
本妙寺(京都市)

・照り（てり）屋根：屋根の面が下向きに(凹型)左右が上に反りかえっている。

東福寺

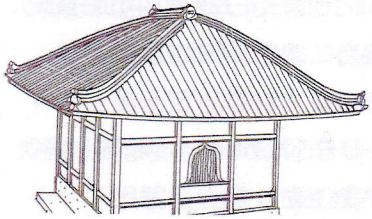
・起り（むくり）屋根：屋根の面が上向きに(凸型)左右が下に反りかえっている。





東福寺

・照り起り屋根：屋根の上方が起り、下方が照りになっている。



文殊堂(天橋立)

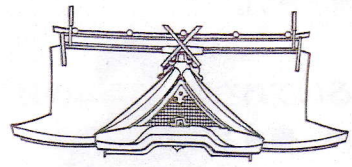
・裳腰屋根(もこしやね)：屋根が二重構造になっているのに内部は一階造りとなり、下部の庇をいう。

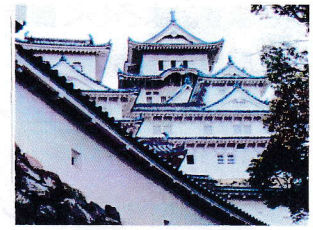
西壽寺(京都市)　裳腰屋根　法隆寺五重塔

・まねき屋根

切り妻面からみた左右の屋根の長さが極端に異なり、手招きした形に見える。

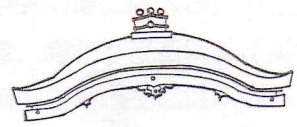
千鳥（据）破風：屋根の中途に設けた三角形の入母屋破風、千鳥とは三角形をいう。

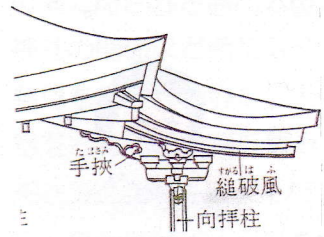




姫路城の千鳥破風

唐破風：合掌部丸い山形で、下に沿って端が跳ね上がり、凸凹二用の連続曲線を為す。



棚倉孫神社拝殿の唐破風

縋破風：屋根の側面にさらに葺き下ろしの屋根を付けた部分。